

エコアクション21 環境経営レポート

(2024年度版)

運用期間：2024年3月～2025年2月



グリーンサービス産業株式会社



2025年5月21日 発行



目 次

1. 組織の概要	．．．．．1P
2. 環境経営方針	．．．．．2P
3. 2020年度(試行期間)及び中長期環境経営目標	．．．3P
4. 環境経営計画	．．．．．4P
5. 環境経営計画の実施体制	．．．．．5P
6. 目標の実績	．．．．．6P
7. 環境経営計画の取組結果とその評価	．．．．．7P
及び次年度の環境経営目標と環境計画	
8. 社内外における環境活動への取組	．．．．．8P
9. 環境関連法規などの遵守状況及び違反、訴訟等の有無	．．．8P
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	．．．8P

1. 組織の概要

(1)名称及び代表者名

グリーンサービス産業株式会社
代表取締役 藤井邦利

(2)所在地

本社 福岡県飯塚市内野1396

(3)環境管理責任者及び担当者氏名並びに連絡先

環境管理責任者 藤井 利文 0948-72-4051 green@green-s.jp
環境管理担当者 藤井 利文 0948-72-4051 green@green-s.jp

(4)事業内容

グリーンサービス産業(株) 造園工事 緑地・公園・庭園工事 庭園緑地管理
土木工事 災害復旧・農業土木
樹木再生 治療・診断

(5)事業規模

売上高 5000万/年
工事等の件数 140件

	本社
従業員数	4人
延べ床面積	240㎡

(6)事業年度 3月1日から翌年2月28日

(7)会社設立年月日 平成31年3月1日

(8)資本金 500万円

◆認証・登録の対象範囲(組織・活動)

- (1)対象事業者名 グリーンサービス産業株式会社
(2)対象事業所 本社
(3)対象他事業所 ー
(4)対象事業活動 造園工事 緑地・公園・庭園工事
土木工事 災害復旧・農業土木
樹木再生 治療・診断
(5)認証登録範囲 全社・全活動

2. 環境経営方針

基本理念

グリーンサービス産業株式会社は、造園工事ほか樹木の診断治療、街路樹等の緑化樹・庭園植栽木の再生等の施工を通じて「快適な景観と環境」「適正な造園技術で環境を再生」を掲げ、全社員が事業活動のあらゆる局面で、地球環境に影響を与えていることを認識し、配慮して行動します。

行動指針

環境経営システムを構築・運用し、環境負荷の低減を継続的に推進します。そのために以下の事項を重点的に取り組みます。

1. 二酸化炭素排出削減に取り組みます。
使用エネルギー(電気、ガソリン、軽油)の削減に努めます。
2. 省資源並びにリサイクルに取り組みます。
 - ①産業廃棄物の削減はもとより、分別を徹底してリサイクルを推進します。
 - ②適正な維持管理を推進し資源剤長寿命の長期化に取り組みます。
 - ③剪定クズ等の廃棄物を堆肥化しリサイクルを推進します。
3. 建設材料や副資材等のグリーン化・グリーン購入に取り組みます。
4. 化学物質使用料の削減に努めます。
5. 最新の公害防止技術・環境保全技術(騒音・振動・省エネ等)の導入に努めます。
6. 環境負荷の低減に資する提案・設計を推進します。
7. 事業活動に関連する環境関連法規等を遵守します。
8. 建設現場における景観及び環境保全につとめます。
9. 事業上の協業事業者に、環境への取組を理解しまた行動していただくように努力します。
10. 環境経営の継続的改善を誓約します。
11. 地域や自治体等関係団体などとのボランティア活動を通して地域環境の美化と環境意識の向上に努めます。
12. この環境経営方針は、広く一般に公開します。

2020年10月22日制定

グリーンサービス産業株式会社
代表取締役
藤井 邦利

3. 環境経営目標

環境目標			単位	基準年度	目標				
				2023年度 3～2月	2024年度 3～2月	2025年度 3～2月	2026年度 3～2月	2027年度 3～2月	
1	二酸化炭素の削減		kg-CO ₂	16,462.00	16,380 0.5%	16,297 1%	16,133 2%	15,968 3%	
	1-1	電力使用量の削減	kWh	6,499.00	6,467 0.5%	6,434 1%	6,369 2%	6,304 3%	
	1-2	軽油使用量の削減	ℓ	3,084.08	3,069 0.5%	3,053 1%	3,022 2%	2,992 3%	
	1-3	ガソリン使用量の削減	ℓ	2,626.96	2,614 0.5%	2,601 1%	2,574 2%	2,548 3%	
2	2-1	産業廃棄物の削減	kg	0.00	0 0.5%	0 1%	0 2%	0 3%	
	2-2	コピー用紙購入量の削減	枚	3,000.00	2,985 0.5%	2,970 1%	2,940 2%	2,910 3%	
3	水使用量の削減(※1)		m ³		節水活動を行う				
4	化学物質の 適正管理(※2)	農薬使用量の削減(※2)	ℓ		適正管理を行う				
5	地域貢献 (ボランティア)	会社周辺の清掃	回	-	毎月行う				
6	造園業における環境性能の向上	樹木の保護育成	本		保護育成				
		剪定枝葉等の適正処理	kg	18,000.00	17,910 0.5%	17,820 1%	17,464 2%	16,940 3%	
		植樹ボランティア等への参加実施	回	1	ボランティアへの参加				

※1水使用量は井戸水使用につきメーターが無い為データが取れません。

※2化学物質（害虫駆除）の使用は少量のため、適正管理を行う。

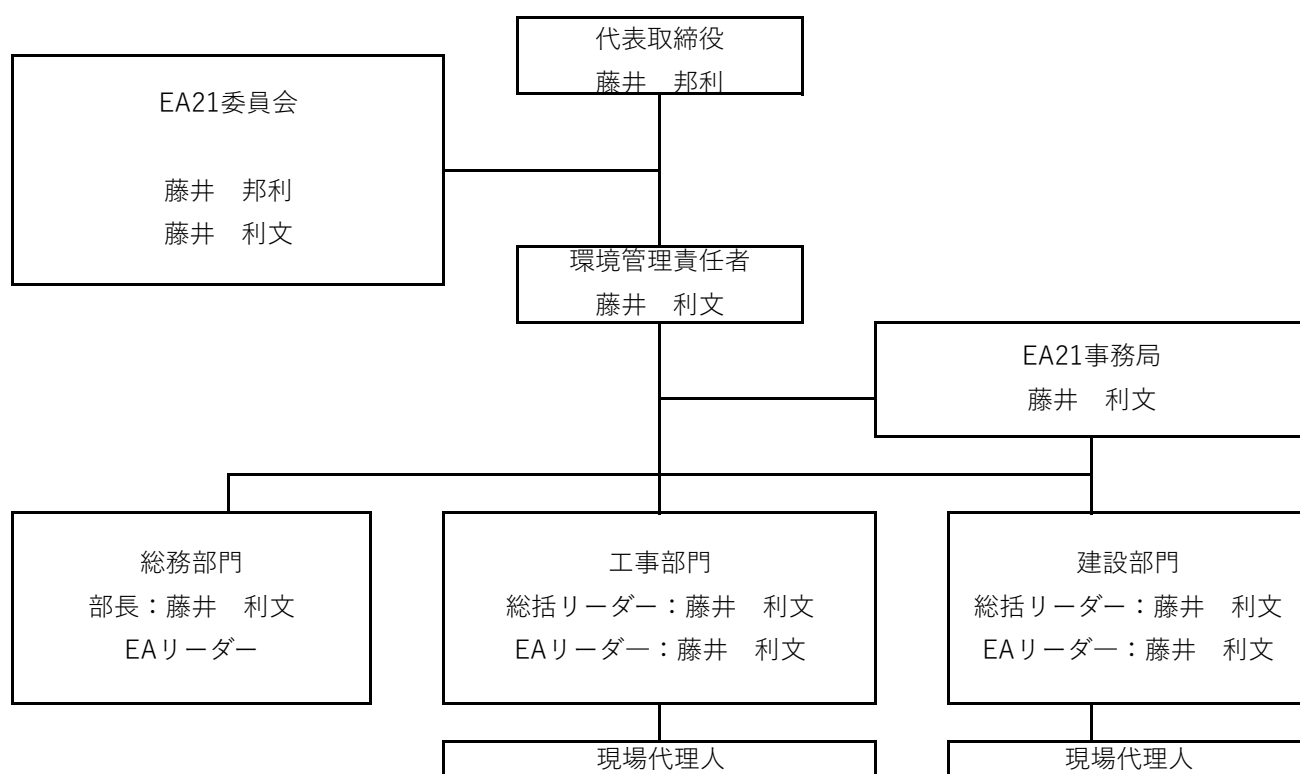
※3二酸化炭素排出係数は九州電力の2021年度の調整後排出係数0.382kg-CO₂/kWhを使用した。

※4産業廃棄物も受注した工事により年度でごとに変動する。

4. 環境経営計画

取組目標		区分	活動項目		責任者
1.二酸化炭素の排出量の削減					
1	電気使用量の削減	事務所	1	エアコン設定温度を決め実行する	藤井 利文
		事務所	2	昼休みの消灯	藤井 利文
		事務所	3	残業時の不要な電気の消灯	藤井 利文
		事務所	4	長時間離れる時の電気機材の電源のOFF	藤井 利文
2	ガソリン・軽油使用量の削減	現場	1	作業規模に応じた建設機械の導入	藤井 利文
		現場	2	運搬計画を見直す	藤井 利文
		現場	3	省燃費運転の励行	藤井 利文
		現場	4	過積載の防止	藤井 利文
		現場	5	タイヤ空気圧の適正維持	藤井 利文
		現場	6	アイドリングストップの実施	藤井 利文
		現場	7	施工方法や作業方法を見直し、エネルギーの効率利用を図る	藤井 利文
		現場	8	エンジンオイルは環境に配慮した製品を使用	藤井 利文
		現場	9	排出量低減効果のある燃料やオイルを使用	藤井 利文
2.廃棄物総排出量の削減					
1	廃棄物発生の削減	現場	1	施工方法作業方法を見直す	藤井 利文
		現場	2	施工時、作業時における資材ロスの低減	藤井 利文
		現場	3	廃棄物の発生量の把握、削減目標の設定	藤井 利文
		現場	4	発注時の資材の確認等で残余資材の廃棄の抑制	藤井 利文
		現場	5	再利用の向上を図る為、分別等の工夫を図る	藤井 利文
		現場	6	解体等時に分別しやすい構造とする	藤井 利文
		現場	7	購入時原材料の変更等で葉材などを削減する	藤井 利文
3.水使用量の削減					
1	節水活動	現場	1	公園植栽工事で使用する水は排水路等の水使用	藤井 利文
		事務所	1	井戸水であるが適正使用の励行を図る	藤井 利文
4.化学物質の適正使用					
1	化学物質の適正使用	現場	1	適正使用の励行	藤井 利文
5.地域貢献(ボランティア)					
1	会社周辺の清掃	事務所	1	月に一度会社周辺の道路の清掃を行う	藤井 利文
6.造園における環境性能の向上					
1	造園における環境性能の向上	現場	1	枝葉処分等の削減	藤井 利文
		現場	2	適正な剪定管理の実施	藤井 利文
		現場	3	枝葉等処分材の再利用	藤井 利文
		現場	4	植樹ボランティア等への参加実施	藤井 利文
		現場	5	提案による剪定管理案件の交渉	藤井 利文
		現場	6	現場における騒音対策	藤井 利文

5. 環境経営計画の実施体制



役割分担表

氏名	所属(役職)	役割・責任・権限・氏名
藤井 邦利	代表者 (代表取締役社長)	全体の統括、環境方針の設定、環境への取り組みを実施するための資源の準備(100人以上の場合)、全体の評価と見直し
藤井 利文	環境管理責任者 (取締役)	全体の把握／環境管理システムを構築し、運用し、その状況を社長に報告する
	EA21委員会	3カ月に1回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況を審議する
	EA21委員会	EA21文章および記録類の作成・維持・管理
藤井 利文	総務部門	EA21委員会及び環境管理責任者に必要な情報を提供すると共に、委員会の決定事項等を社内に周知し、EA21を着実に実施する。
藤井 利文	工事部門	工事部門におけるEA21の遂行を統括する。
藤井 利文	建設部門	建設部門におけるEA21の遂行を統括する。
EAリーダー	各部門	・各部門におけるEA21の遂行管理に当たる。 ・各部門における環境教育を担当する。
現場代理人	工事部門、建設部門	・各部門における建設現場の遂行管理に当たる。 ・各部門における関連部門との調整を担当する。

6.目標の実績

2024年度の環境経営目標と実績

環境目標			単位	目標	実績	達成率	評価
				2024.3～2025.2月	2024.3～2025.2月	目標/実績	
1	二酸化炭素の削減		kg-CO2	16,380.00	14285.55	115%	○
	1-1	電力使用量の削減	kWh	6,466.51	3,154.00	205%	○
	1-2	軽油使用量の削減	ℓ	3,068.66	3175.48	97%	×
	1-3	ガソリン使用量の削減	ℓ	2,614.00	2106.89	124%	○
2	2-1	産業廃棄物の削減	kg	0.00	0.00	-	-
	2-2	コピー用紙購入量の削減	枚	2,985.00	3,000.00	100%	×
3	水使用量の削減(※1)		—	適正管理	適正管理	適正管理	-
4	化学物質の適正管理	化学物質の適正管理(※2)	—	適正管理	適正管理	適正管理	-
5	地域貢献(ボランティア)	会社周辺の清掃		-	-	-	-
6	造園業における環境性能の向上	剪定枝葉等の適正処理	kg	17,910.00	64,220.00	28%	×
		植樹ボランティア等への参加実施	回	-	-	-	-
				-	-	-	-
				-	-	-	-
				-	-	-	-

※1水使用量は井戸水使用につきメーターが無い為データが取れません。

※2化学物質（害虫駆除）の使用は少量のため、適正管理を行う。

※3実績値の算出に使用した二酸化炭素排出係数は九州電力の2021年度の調整後排出係数0.382kg-CO2/kWhを使用した。

※目標未達成は、業務量の増大による。

※産業廃棄物は、排出現場がなかったためゼロとなった。

7. 環境経営計画の取組結果とその評価 及び次年度の環境経営目標と環境経営計画

取組目標		区分	活動項目		結果	評価及び次年度の取り組み内容
1.二酸化炭素の排出量の削減						
1	電気使用量の削減	事務所	1	エアコン設定温度を決め実行する	○	・目標は、達成できた。 ・社員の意識向上に努めていきたい
		事務所	2	昼休みの消灯	○	
		事務所	3	残業時の不要な電気の消灯	○	
		事務所	4	長時間離れる時の電気機材の電源のOFF	○	
2	ガソリン・軽油使用量の削減	現場	1	作業規模に応じた建設機械の導入	○	・工事件数の増加に伴い軽油は増加、ガソリンの使用量は減少。 ・電動チェーンソーへの切替を継続。 ・工事の規模内容に左右されてしまうが、今後も削減に努め社員の意識向上に努めていきたい
		現場	2	運搬計画を見直す	○	
		現場	3	省燃費運転の励行	○	
		現場	4	過積載の防止	○	
		現場	5	タイヤ空気圧の適正維持	○	
		現場	6	アイドリングストップの実施	○	
		現場	7	施工方法や作業方法を見直し、エネルギーの効率利用を図る	○	
		現場	8	エンジンオイルは環境に配慮した製品を使用	○	
		現場	9	排出量低減効果のある燃料やオイルを使用	○	
2.廃棄物総排出量の削減						
1	廃棄物発生量の削減	現場	1	施工方法作業方法を見直す	○	・産業廃棄物を排出する現場がなかったため、排出量はゼロとなった。 ・産業廃棄物の削減に努め、今後も排出を減らしていくべく社員の意識向上に努めていく
		現場	2	施工時、作業時における資材ロスの低減	○	
		現場	3	廃棄物の発生量の把握、削減目標の設定	○	
		現場	4	発注時の資材の確認等で残余資材の廃棄の抑制	○	
		現場	5	再利用の向上を図る為、分別等の工夫を図る	○	
		現場	6	解体等時に分別しやすい構造とする	○	
		現場	7	購入時原材料の変更等で葉材などを削減する	○	
3.水使用量の削減						
1	節水活動	現場	1	公園植栽工事で使用する水は排水路等の水使用	○	・今後も節水活動を行っていく
		事務所	1	井戸水であるが適正使用を励行する	○	
4.化学物質の適正使用						
1	化学物質の適正使用	現場	1	適正使用の励行	○	・今後も適正管理を行う
5.地域貢献(ボランティア)						
1	会社周辺の清掃	事務所	1	月に一度会社周辺の道路の清掃を行う	○	・今後も積極的に行っていく
6.造園における環境性能の向上						
1	造園における環境性の向上	現場	1	枝葉処分等の削減	○	・ウッドチップーにより廃棄物として廃棄していた枝葉等を発酵させ堆肥可。近隣農家に配布。引き続き継続していきたい。 ・広葉樹については「まき」として利用できるため希望者へ配布。その他の伐採材についても木工用として配布。 ・電動チェーンソーの使用、バリカンの使用低減により騒音対策を行った。 ・適正な剪定管理の実施を行い、環境配慮に努める ・今後も、積極的なボランティアへの参加、技術提案を行う
		現場	2	適正な剪定管理の実施	○	
		現場	3	枝葉等処分材の再利用	○	
		現場	4	植樹ボランティア等への参加実施	○	
		現場	5	提案による剪定管理案件の交渉	○	

○：結果が得られている。 △：結果が不十分 ×：結果が得られていない

次年度の環境経営計画は運用期間を継続する。

7-2 次年度の環境経営目標

作成日 2025.3.1

作成者 藤井利文

環境目標			単位	基準年度	目標			
				2024年度 3～2月	2025度 3～2月	2026年度 3～2月	2027年度 3～2月	
1	二酸化炭素の削減		kg-CO2	14,285.56	14,143 1%	13,860 2%	13,444 3%	
	1-1	電力使用量の削減	kWh	3,154.00	3,122 1%	3,060 2%	2,968 3%	
	1-2	軽油使用量の削減	ℓ	3,175.48	3,144 1%	3,081 2%	2,988 3%	
	1-3	ガソリン使用量の削減	ℓ	2,106.89	2,086 1%	2,044 2%	1,983 3%	
2	2-1	産業廃棄物の削減	kg	0.00	0 1%	0 2%	0 3%	
	2-2	コピー用紙購入量の削減	枚	3,000.00	2,970 1%	2,911 2%	2,823 3%	
3	水使用量の削減(※1)		m³		節水活動を行う			
4	化学物質の 適正管理(※2)	農薬使用量の削減(※2)	ℓ		適正管理を行う			
5	地域貢献 (ボランティア)	会社周辺の清掃	回	1	毎月行う			
6	造園業 における環 境性能の向 上	技術力の向上（研修受 講、資格取得）	回	-	資格取得、講習受講			
		事故防止	回	0.00				
		植樹ボランティア等への 参加実施	回	-	ボランティアへの参加			

※1水使用量は井戸水使用につきメーターが無い為データが取れません。

※2化学物質（害虫駆除）の使用は少量のため、適正管理を行う。

※3二酸化炭素排出係数は九州電力の2021年度の調整後排出係数0.382kg-CO2/kWhを使用した

※4産業廃棄物も受注した工事により年度でごとに変動する。

8. 社内外における環境活動への取組

地域貢献活動の一環として会社周辺の環境整備を行っています。
内容は、地域の清掃活動・道路パトロールなどです。



飯塚市内野地区道路清掃の様子

9. 環境関係法規などの遵守状況及び違反、訴訟との有無

環境関連法規（廃棄物処理法、建設リサイクル法、騒音規制法、振動規制法等）及びそれらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありませんでした。尚、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しと指示の結果

■全体評価

- ・エコアクションに取り組んで約1年半が経過し、社員の意識も定着してきたようである。但し、業務量の増大によりモチベーションを維持することが困難になってきた面もある。
- ・伐採した枝葉について、ウッドチップパーにより粉碎、発酵させ堆肥にし、近隣農家に配布したところ好評であったので引き続き、農家の希望を聞きながら協力していきたい。広葉樹の「まき」については薪ストーブ利用者に提供している。本年度年間約3.5トン进行配布し、今後も継続していく。
- ・騒音対策としてバリカンの使用をなるべく控えて作業をすることで、作業品質も向上するが効率性に若干の課題があったが、ある程度、全体の生産性を向上させる（ムダをなくす）ことで、効率性の低下を吸収できた。
- ・昨年購入したハイブリッド建機（草刈り機）及び電動チェーンソーの使用を積極的に進めた。二酸化炭素排出量の低減に貢献できるだけでなく、騒音対策にもなり、今後も最新の機材を積極的に導入していきたい。
- ・労災事故がなかった。社員の健康を適正に管理できた。

■見直しと指示

労災事故を絶対起こさないようにすること。継続して健康に気をつけながら注意すること。